

いわた

# 文化財だより 第190号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和3年1月4日発行

目次

- 県指定文化財になりました！  
熊野絵巻 . . . . . P1～2
- いわたのこんなお話 . . . . . P3
- WEBで文化財だよりを楽しもう！ . . . . . P4
- コラム『職人の技が光る町、磐田』森本司 . . . . . P4

## 県指定文化財になりました！

# 熊野絵巻



磐田市指定文化財「熊野絵巻」が、令和2年12月8日に静岡県の有形文化財（絵画）に指定されました。この絵巻は、静岡県に関わりが深い謡曲（※）「熊野」をもとに独特な画風で描かれた県内で他に例を見ない極めて重要な作品であり、また物語の主人公である熊野のゆかりの地である磐田市池田に伝来する意義から、この度静岡県指定文化財になりました。（※）能の台本、詞章



熊野絵巻（花見の宴の場面）



## 熊野絵巻とは

池田にある行興寺蔵の熊野絵巻は、謡曲「熊野」の文に絵を描き入れた縦30cm、長さ830cmの絵巻物です。

中世の文字の特徴である大らかでゆったりとした文字と、物語の主要人物である熊野や平清盛の三男・平宗盛（1147～1185）をはじめとする多くの人物や寺社などが素朴な画風で描かれています。室町時代後期の作と考えられ、謡曲を絵画化した絵巻としては全国的にも古い例に当たります。



## 謡曲「熊野」とあらすじ

室町時代後期に熊野の物語に感動し世阿弥が書いたといわれる作品が謡曲「熊野」です。熊野絵巻は、この謡曲「熊野」を詞書として用いています。

### 【あらすじ】

熊野は平安時代の終わり頃の女性で、池田の名家であった父が、和歌山の熊野権現くまのごんげんにお祈りし、子を授かったことにちなみ熊野と名付けられました。(※)

美しく聡明な女性へと成長した熊野は、遠江の国司として赴任した宗盛に見初められ、京の都に招かれ仕えます。数年後、池田にいる母が病に倒れた知らせを受けた熊野（右図）は、花見の宴（表紙）で雨に散る花をみて

いかにせむ都の春もおしけれど慣れし東の花や散るらん

（都の春も名残りおいしいけれど、住み慣れた池田の母の命も散ろうとしている）

という歌を詠みました。母を思う気持ちに感動した宗盛は、熊野の帰郷を許しました。

(※) 父親の名前が「熊野」、娘は「侍従」という説もあります



熊野絵巻  
(母の知らせを受ける場面  
左が熊野、右が侍女)



## 熊野絵巻の特色

### ① 人物の表現

熊野絵巻では左のように、室町時代後期の絵巻物にみられる、詞書と詞書の間に向かい合った人物が小さく描かれているという特色があります。

また、人物画に名前が記されているのも特徴です。中には謡曲「熊野」では名前のなかった人物や、登場していない人物も描かれ、名前が付けられています。

### ② 建物、植物の表現

人物が非常に細い筆で着物の柄や髪を描く一方で、下図のように建物は簡略された描写であること、人物や建物に対して大振りに植物を描いている点も特色にあげられます。



熊野絵巻  
(左が熊野、右が宗盛)

### ③ 限られた色での表現

熊野絵巻では、①、②のような特徴ある表現を、赤、緑、藍、茶色、黒を基調とした限られた色を使い表している点も特徴です。

熊野絵巻は、謡曲「熊野」をもとにしつつも絵画にするにあたり、様々な表現と工夫がされた、熊野ゆかりの地・池田に伝わる大変貴重な作品です。



熊野絵巻  
(観音堂にて母の病氣回復を祈る場面)

熊野絵巻は展示・公開をしております。

市ホームページにて、画像の一部をご覧ください。

## いわたのこななお話

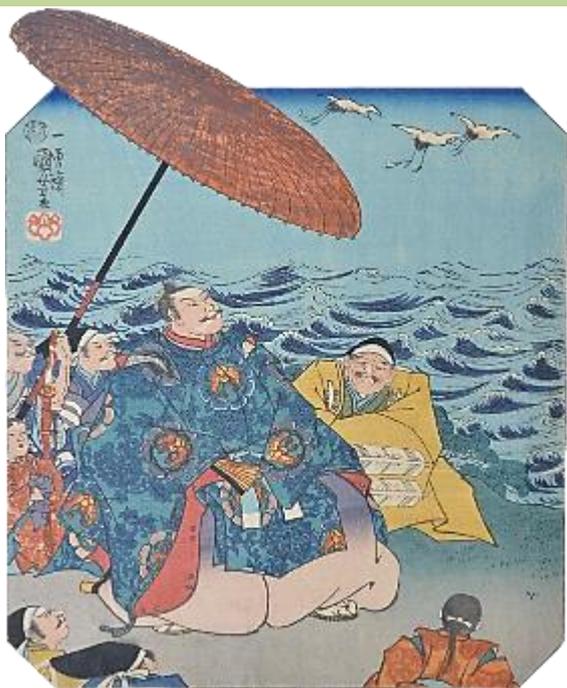
## 金札の鶴

江戸時代の浮世絵師・歌川広重の五十三次張交<sup>はりまぜ</sup>(※)に見える見付という文字と共に描かれた、足に札をつけた鶴。小さく「岩井むら 金札の鶴」ともありますが…今回は、この鶴にまつわるお話を紹介します。

(※) 張交 江戸時代から明治時代に描かれた様式の1つ。1枚の版画にいろいろな形や種類の絵をいくつも配置した浮世絵



歌川広重「五十三次張交」



歌川国芳「東海道五十三対 見付」

太田川を渡り 1 kmばかり行った先に岩井という村がありました。

地元の言い伝えによると、その昔源頼朝が上洛の途中に岩井に寄り、平治の乱で敗れ東国へと向かう途中で亡くなった兄・朝長<sup>ともなが</sup>を弔うため、村の池で放生会<sup>ほうじょうえ</sup>(※)をおこなったといわれています。

頼朝は、その際に足に年号を記した金の札をつけた鶴を放ちました。

「鶴は千年、亀は万年」ともいわれるように、今の世にも足に金の札をつけた鶴が、池のほとりで舞遊んでいるといえます。

(※) 供養のために、捕らえた虫や魚や動物を山野や池、沼に解き放って自由にする法要

以上の話は、江戸時代に刊行された地誌『東海道名所図会』、江戸時代末の浮世絵師・歌川国芳<sup>くによし</sup>の浮世絵『東海道五十三対』を参考にしています。

鎌倉時代に成立した歴史書『吾妻鑑』<sup>あずまがみ</sup>によると、頼朝は建久元年(1190)の上洛の際10月13日に菊川宿(島田市)、18日に橋本宿(湖西市)を訪れています。放生会はこの中4日の出来事だったのかもしれませんが。

物語の舞台とされる鶴ヶ池の名は、このお話がもとになったともいわれています。



鶴ヶ池



磐田市ホームページで公開中

## WEBで文化財だよりを楽しもう！

パソコンやタブレット、スマートフォンなどから閲覧できます！



©磐田市

ご自宅でいわた文化財だよりを楽しんでみませんか。市ホームページでは、最新号のほかバックナンバーも公開しています。バックナンバーの閲覧方法と、これまでに発行した文化財だよりの中から今月のお勧めをご紹介します！

### ● 閲覧方法 ●

磐田市ホームページトップページ内のページ番号検索に1007901を入力後、いわた文化財だよりのバックナンバーの一覧から閲覧したい号数をダブルクリックしてください。

### ● 今月のお勧め ●

磐田市の西側を南北に貫く、寺谷用水。沿線の人たちにはなじみ深い用水路ですが、用水路に沿ってぶらりと巡るとそこに新たな発見があるかもしれません。第138～142号の4号にわたって、紹介しています。ぜひ、お読みください。



## 職員リレーコラム

### 職人の技が光る町、磐田

森本 司

はじめまして、今年度から文化財課に配属された東京都出身の新人職員・森本司です。東京には、遠州に馴染みのある地名が多く存在していて、中には「浜松町」のように駅名にもなっているものもあります。

「秋葉原」の“秋葉”もその一つです。鎮火のために明治3年(1870)江戸城内の紅葉山から鎮火三神を勧請(神を神社に迎える)して建てられた神社を、秋葉山が勧請されたと誤解した人々が、神社を「秋葉さん」、「秋葉様」とよび、さらに神社が建った地を「秋葉の原」「秋葉っ原」とよんだことによるものといわれています。東京の人も火防といえは秋葉山という認識だったようです。

磐田市内には、そんな秋葉山に関係する木やコンクリートなど様々な材質の灯籠が各所に建っており、中には、明治期に職人の手によって精巧な彫刻がなされたものもあります。磐田には紹介した灯籠の他にも祭りの屋台など精巧で芸術的な細工が多く、遠州育ちではない自分にとって、木材加工の職人さんの技は驚きでした。

今後、祭りが開催される際には、屋台の彫刻などの細部にも注目して楽しみたいと思っています。



市指定文化財・高木秋葉山常夜燈の西側彫刻



市指定文化財・高木秋葉山常夜燈

**編集後記** あけましておめでとうございます。今年も文化財だよりをよろしくお願ひいたします。秋にはだよりも200号、より一層精進してまいります。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

今年も  
よろしく  
お願ひします



◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田市 文化財だより](#) [検索](#)